

## 令和5年度 学校経営計画書（自己評価）

学校番号	59	学 校 名	静岡県立横須賀高等学校	校 長 名	鈴木 雅道
------	----	-------	-------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	鑑	成果と課題
ア	<b>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的にICT活用する職員90%以上</li> <li>・自ら進んで授業に取り組む生徒80%以上</li> <li>・1単元で1回はALを実践【教務研修】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケート「ICT活用する」と回答93%(R4 93%)</li> <li>・生徒アンケート「自ら進んで授業に…」と回答82%(R4 82%)</li> <li>・教員アンケート「1単元で1回のAL実践」と回答71%(R4 73%)</li> </ul>	<b>A</b>	<p>指導要領の趣旨を踏まえ、特にICTを利用した指導方法について、職員は理解し実践できた。Wi-fi環境が整っていない教室が若干あり、年度末に整備を進めた。</p>
	義務教育段階での学習内容の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書、プリント、校内表示等の工夫を行った職員90%以上</li> <li>・年度当初に立てた朝学習の目標を達成した生徒80%以上</li> <li>・週の家庭学習時間7h以上【全教科】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケート「工夫を行った」と回答93%(R4 89%)</li> <li>・生徒アンケート「朝学習の目標達成」と回答59%(R4 70%)</li> <li>・生徒アンケート「週7h以上の学習」と回答16%(R4 19%)</li> </ul>	<b>B</b>	<p>文字のユニバーサルフォント、大きさ、配色等、十分な工夫を授業改善に中で実践できた。朝学習は設定を見直し、生徒が自主的に計画し実践できる取り組みとした。</p> <p>次年度は3学年とも一人一台端末が揃うため、各教科等で自宅学習できる課題の配信、提出、評価等をGoogle Classroomで完結できるよう研修する。</p>
	中上位層の学力伸張	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学説明会や補習等により、指導の効果を実感する生徒80%</li> <li>・家工商等の検定合格者数の平均が60%以上</li> </ul> <p>【進路】</p> <p>【家工商英国】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート「進路指導の効果を実感」と回答86%(R4 88%)</li> <li>○検定合格72.6%(全検定単純平均)</li> <li>【家庭科】</li> <li>食物調理技術検定合格</li> <li>4級100% 32名 (R4 78.3%)</li> <li>3級87.5% 28/32名 (R4 65.2%)</li> <li>保育技術検定合格</li> <li>4級100% 29名 (R4 100%)</li> <li>・造形表現100% 29名 (R4 100%)</li> <li>・繻子縫製100% 29名 (R4 100%)</li> <li>・家庭看護100% 29名 (R4 100%)</li> <li>・言語表現100% 29名 (R4 100%)</li> <li>3級60% 15/25名 (R4 75%)</li> <li>・造形表現100% 25名 (R4 100%)、</li> <li>・音楽リズム表現60% 15/25名 (R4 75%)、</li> <li>・家庭看護96% 24/25名 (R4 100%)、</li> <li>・言語表現100% 25名 (R4 100%)</li> <li>被服製作技術検定合格</li> <li>4級94% 30/32名 (R4 未実施)</li> <li>【英語】</li> <li>英語検定合格者は50%(2級100% 1名、準2級50% 1/2名、3級33% 1/3名) (R4 33%)</li> <li>【工業】</li> <li>工業の平均: 40.5%(基礎製図27.5%、計算技術34.5%、製図検定0%、ガス溶接100%) (R4 53.1%)</li> <li>【国語】</li> </ul>	<b>A</b>	<p>【進路】3年ぶりに集合形式での進路説明会を実施。進学補習は限られた教員数のため個別指導を実施。今後も進路実現のため、生徒が具体的な行動に移せるよう、ガイダンスや情報提供などの支援を充実させる。</p> <p>【家庭】食物調理技術検定では繰り返し練習を行うことで、技術を習得させることができた。一方で3級(筆記試験)は授業で取り扱う内容であるが、知識の定着が課題である。特に分数計算を苦手と理解させることが課題である。保育技術検定では4種目の検定練習を行い、概ね技術を習得することができた。被服製作技術検定では基本的な縫い方を、作品制作を通して、技術の習得につなげることができた。</p> <p>【英語】英検の受検者数と合格者数が昨年度より増加した。声掛けを強化し受検者を増や努力をする。</p> <p>【工業】製図など空間認識能力が必要な検定は今後も厳しい状況が考えられるため対策を強化する。</p> <p>【国語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員受検から希望者受検に変更したが、希望者が少なく、漢字検定に対する意識が低くなってきている。漢字や語彙力の大切さを伝えていく。</li> </ul> <p>【商業】昨年度より合格率が向上し、良い結果であった。</p>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
			漢字検定合格者 40% (4/10名) (2級 0%/3名、準2級 50%/1/2名、3級 50%/2/2名、5級 100%/1名) 【商業】 情報処理検定合格者 81.3% (準1級 91%/10/11名、2級 67%/2/3名、準2級 50%/1/2名) (R4 71.7%)		
イ	基本的な生活習慣の確立	・欠席年間6回以上の生徒 20%以下、遅刻年間6回以上の生徒 8%以下 ・朝食摂取率 90%以上 【教務研修】【学年】 【生徒保健】	・欠席年間6回以上の生徒は 28% (95/340人) (R4 18.8%) ・遅刻年間6回以上の生徒は 15% (52/340人) (R4 11%) ・朝食摂取率 83.4% (85.1%)	B	職員一同、生徒理解しながら時間を守ることの大切さ等について粘り強く指導したが目標数値には届かなかった。さらに生徒理解を進め、個々の特性に応じた発達を促す声掛けをしていく。 中学生の頃から朝食の欠食が続く生徒が多く、継続した指導をしていく。
	高い規範意識の育成	・グッドマナー横高を常に意識した立ち居振る舞いをしている生徒 90%以上 【生徒保健】	・生徒アンケート「グッドマナーを意識した」と回答 87% (R4 87%)	B	問題行動件数は減少しているが、2学期中頃までは落ち着かない様子であった。イエローカードは昨年度より増加したが、積極的な指導によるものだと考えている。
	情操の育成	・月1冊以上読書する生徒 60% 【図書広報】 ・他者を思いやる心が生徒の中に育っている 【生徒保健】	・生徒アンケートで「月1冊以上読書」と回答 51% (R4 55%) ・「高校生が選ぶ掛川文学賞」選考委員に生徒代表が参加、「掛川ほんわか俳句大賞」市長賞含め4名入賞。「かけがわ教育の日」が家の“宝物”1名佳作。 ・生徒アンケートで「他者の役に立っている」と回答 60% (R4 66%)	B	読書離れがさらに進んでいる。朝読書の形を工夫していく。 他者のために荷物を運んだり、清掃したりと自ら進んで行動できる生徒がいる。外部からも困っている人を助けたという事例報告があった。今後も道徳的な観点を取り入れた人間関係づくりを意識したHR活動等を計画、推進していく。
ウ	校内安全 (学校保健、学校体育、生徒指導)	・ゴミの持ち帰り 100% ・歯科眼科受診率向上 ・新体力テスト点数向上した生徒 60% (前後期比較) ・重大ないじめ件数 0件 ・校内感染の発生 0件 【生徒保健】 【保健体育】	・生徒アンケート「ゴミを持ち帰っている」と回答 98% (R4 97%) ・歯科受診率 61.2% (R4 59.4%) ・眼科受診率 65.3% (R4 63.4%) ・新体力テストで点数向上した生徒 48% (前後期比較) ・重大ないじめ認知件数 1件 ・校内感染については新型コロナウイルスの5類移行にともなう対応となった。しかし、秋に地域の祭典や学校行事を起因とする感染症による学年・学級閉鎖を実施し感染拡大を防いだ。	B	ゴミの持ち帰りは概ね定着してきている。共有スペースの使用法や私物の管理を定着させる。 重大ないじめとして1件認知した。被害生徒に寄り添い、安全な学校生活を送れるように学校として支援体制を整え、対応した。職員においては、改めて校内研修を行い、いじめの未然防止及び発生時の対応等について確認した。生徒に対しては、人権教育の推進や誹謗中傷、差別について指導を行う機会を増やし、いじめを未然防止していく。
	交通安全	・交通マナー苦情の減少 ・重大な交通事故 0件 【生徒保健】	・交通マナーに関する苦情 6件 (R4 7件、R3 3件) ・重大な交通事故 0件 ・交通死亡事故ご遺族による「命のメッセージ展」や講演会 (1年生) を実施。	B	事故件数は減少傾向にある。苦情については、その都度、生徒に注意喚起を行った。交通安全教育の展開方法を工夫し、効果の持続性が高い指導を目指す。
	防災安全	・地域防災訓練参加 70%以上 【総務】	・12月の地域防災訓練へ参加した生徒は全校生徒の 100% (R4	なし	12月3日の地域防災訓練は津波注意報発報に伴い市町村単位の訓練が中止され

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
			24%)、但し訓練未実施地区や家族代表者、役員のみ等を除き、参加すべき生徒の参加率は100%(R4 74%)である>		た。その中でも限られた地区では訓練が行われ、本校生徒13名が参加した。 <u>今年度の参加率は評価データとして活用できないため評価なしとした。</u>
	命を大切に する 教育	・関連講座の満足度80% ・生徒に対する適切な言葉遣いを意識した職員100%【生徒保健】	・熱中症予防講座の満足度99%(R4 98.9%) ・薬学講座の満足度95.7%(R4 93.7%) ・教員アンケート「言葉遣いを意識した」と回答100%(R4 93%)	A	生徒の関心が高いテーマを取り上げ、健康や危機管理についての意識の向上を図ることができた。 全ての教員が生徒に対する適切な言葉遣いを意識しており、生徒への配慮が適切に行われている。
	危機管理	・教職員の不祥事0件 ・校内での事故件数の減少 ・一斉安全点検年3回【危機管理委員会】 【事務室】	・不祥事0件、不祥事根絶研修を毎月実施。 ・ヒヤリハット事例について教員アンケート結果等で共有した。 ・校内での、施設設備の不備による事故件数0件(R4 0件) ・一斉安全(施設)点検を年3回実施、職員安全衛生委員会を毎月実施	A	不祥事根絶研修は今後も毎月実施していく。教員による安全点検を年3回実施し、危険個所の把握と改善等を順次行うことができた。引き続き計画的な修繕、継続した点検実施により現状把握を行い、安全・安心な教育環境を確保しく。
エ	希望する 進路 の自己実 現	・2年終了時までに進路希望「未定」0人 ・将来の仕事や生き方を真剣に考えている生徒80%以上【進路】	・2年生10月の進路希望調査における「未定」は7名。3学期の進路ガイダンス等で目標に近づけていく。 ・生徒アンケート「将来の生き方を真剣に考えている」と回答81%(R4 80%)	A	進路意識を高め、主体的取り組みを促すよう、情報提供や調査・相談の機会を増やしていきたい。
	多様な生徒の支援 及び特別 支援教育 の充実	・特別支援教育の知識やスキルを支援に活用した職員80%以上 ・個別の指導計画作成率向上 ・SST講座による自尊感情向上 【生徒保健】【学年】	・教員アンケート「特別支援教育のスキル活用」と回答89%(R4 81%)。 ・個別の指導計画作成は無かったが、2件のケース会議を行い今後の指導計画を協議し、職員研修でも全職員で情報の共有を図った。 ・希望者によるSST(ソーシャルスキルトレーニング)講座に参加した生徒8人全員が自身のコミュニケーション力の向上を実感することができた。また1年生全員を対象とするSST講座を実施することができた。 ・袋井特支コーディネーター、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、外部支援機関との連携及び支援を得ることができた。	A	外部講師と連携して行った1年生のSST講座(全員対象)では、自らの長所と短所を振り返り、自尊感情の向上を図った。希望者対象のSST講座を活用し対人スキルの向上を図り、就職活動につなげることができた。 生徒指導のあった生徒や学校生活において不安な一面がある生徒に対しては、保護者の理解を得ながら積極的にSCとの面談を設けた。また必要に応じてSCと保護者を直接つなぎ、生徒を理解する機会を設けた。SCの所見は生徒への理解や支援に繋がった。
オ	地域に根 ざした学 校	・異年齢と交流した生徒100% ・日常的な情報発信 ・一部活動一ボランティアの実施部活100% 【総務】【部活動】	・1年保育体験93.5%(出席者115/123名)、2年就業体験____%(出席者 /103名)=1/29から実施予定のため空欄、7月大須賀中合同避難所訓練93% ・学校HPの情報発信は214件。	A	・大須賀中学校との合同防災(避難所運営)訓練は予定していた生徒の多くが参加した。部活動単位の仕事内容は継続したいが、部活無所属や引退した生徒の積極的な訓練参加を検討したい。 「一部活動一ボランティア」は感染症に

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		<p><b>【生徒保健】</b></p>	<p>Instagram を開設し、257 件発信した (1 月 11 日現在)。</p> <p>・一部活動一ボランティアは 100% の部活動が実施。</p>		<p>よる学年閉鎖等により、参加人数は例年より少なかったが、「秋の文化展」の際に多くの部が実施した。年間を通じて活動を継続している部活動もある。</p>
	<p><b>地域との連携・協働</b></p>	<p>・地域との協働または SDGs 推進に取り組んだ職員 80%</p> <p>・将来は地元で地域貢献したいと考える生徒 80%以上</p> <p>・グローバル・ハイスクール共同研究の完成と成果発表</p> <p><b>【全職員】</b></p>	<p>・教員アンケートで「SDGs 推進」したと回答 68% (R4 74%)</p> <p>・生徒アンケートで「将来地域に貢献」との回答 68% (R4 69%)</p> <p>・各部活動でも地域貢献をすすめ、書道部は市の刊行物表紙や行事看板を多数揮毫し、郷土芸能部は県や近隣市の行事やボランティア活動へ積極的に参加した。</p> <p>・「グローバル・ハイスクール事業」では各学年とも地域と連携した探究を実施できた。5 日間の就業体験の単位化のため教育課程を変更した。</p> <p>・家庭コースでは「地域学充実事業」を活用。地元食材を生かした複数の料理コンテストで入賞できた。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>地域の人的・物的資源 (横須賀さしすせそ等) が有効利用できるよう総探を中心にさらに継続していく。</p> <p>今年度で「グローバル・ハイスクール事業」は終了するが、次年度以降もこの事業の成果を生かし地域と連携した取り組みを継続していく。また共同研究を行ってきた池新田高校とは今後も情報を共有していきたい。</p> <p>就業体験の単位化を次年度から施行する見通しがついた (1 単位)。</p>
カ	<p>部活動と学校行事の一層の活性化</p>	<p>・部活動に積極的に参加している生徒 80%以上</p> <p>・学校行事に積極的に参加している生徒 80%以上</p> <p>・部活動数の削減計画立案実施 <b>【生徒保健】</b></p>	<p>・生徒アンケート「部活動に積極的に参加」と回答 83% (R4 84%)</p> <p>・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加」と回答 87% (R4 86%)</p> <p>・次年度新入生の状況を踏まえ削減計画を進めていく。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>部活動及び学校行事ともに、コロナ禍の制限された状況しか知らない生徒たちであったが、自ら考え、仲間と協力し、取り組めたことが確認できる。次年度に向けた学校行事の準備と令和 7 年度以降の部活動の精選とあり方の検討を進めていく。</p>
キ	<p>新学習指導要領等への対応</p>	<p>・観点別評価の研究・改善に取り組んでいる教科 100%</p> <p>・家工商を中心とした連携実施</p> <p><b>【教務研修】</b></p> <p><b>【全教科】</b></p>	<p>・観点別評価の研究・改善に取り組んでいる教科 100%</p> <p>・「とうもんの里」と連携。家庭科では地域の魅力が発信できるレシピ作りや料理コンテストへの出品、イベントへの出店を行った。商業科では施設を見学し、会の取り組みを伺い、「紹介パネルの作成」を行った。</p> <p>・工業科では例年スズキ様の工場見学、講話等を実施していたが時間割の都合により実施できなかった。</p> <p>・商業科では金融機関の講師による金融講座を実施した。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながるよう来年度も継続して研究する。</p> <p>地域で活動する方々の様子を他地域へどのように伝えていくか、より良い方策を考えていく。</p> <p>芸術科をはじめ、教育課程を検討し、専門科目及び学校設定科目の準備を始めた。併せて観点別評価、指導と評価の一本化を引き続き研究している。</p>
	<p>働き方改革に対する組織的取組</p>	<p>・やめる、へらす、かえる実践</p> <p>・執務の効率化</p> <p><b>【全職員】</b></p>	<p>・13 項目の提案があった。内容は生徒指導や朝学習のあり方についてなどである。</p> <p>・時間外在校時間、教員一人あたり平均月 4 時間削減 (R5 年 12 月現在、昨年度比)。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>変化を怖がらない積極性を持った職場を目指す。職員室には職員同士のコミュニケーションがとれる場を設けたい。</p> <p>次年度から生徒の完全下校時刻、職員の完全退庁時刻を設定するとともに、教職員の業務と労働環境改善を図っていく。</p>